

検証会議における主な意見

議題 総合戦略の検証

1. 総合戦略の取組状況について・・・資料1

質疑・意見

○（会長）

健康寿命、大分県は3年に1度調査があると思うが、それとは別に竹田市独自で1年ごとに数値をとっているのか

（事務局）

このKPIについては、竹田市ではお達者年齢の数値を用いている。5年間の平均をとっており、県が公表している数値を参照している。単年度の数値ではない。

○（会長）

観光客数については、中心市街地の数値と説明があったが、観光客の年間値300万人誘致とある。この数値も施設を絞ってカウントしているのか。

（事務局）

竹田市の観光客数という数値があるが、これについては竹田地域、久住地域、荻地域、直入地域で集計しているが、観光施設についてはある程度絞っている。

○（委員）

観光客以外のKPIは順調に進んでいると思う。観光についてはコロナがあるので全体的に仕方がないかなと思う。県の取組になるがTAOと農業を合わせて竹田の良さを伝えてもらうコンセプトで事業を作成している。コロナ禍のなかでもTAOの丘には1日100人弱の方が来ている。その100人を竹田に流していきたい。今回ツーリズム協会、商工観光課、農政課と協力させていただいた。今後も協力をお願いしたい。

○（委員）

- ・農業後継者、目標数値を達成できそうだが、さらに推進していただきたい。
- ・中心市街地の居住人口等は順調だが、移住者は必ずしも市街地に住みたいわけではないと思うので、地方の空き家紹介等を進めていただきたい。
- ・女性の流出について、竹田市内での新しい就職先の創出が必要。勝手な想像だが、竹田は宇宙がきれいに見えるので、今話題の宇宙港に関連した事業ができないか。

（事務局）

- ・空き家バンクの登録数が少ないことについては、危機感を持って取り組んでいる。地域に足を運んで物件の把握に努めている。最近の状況では、登録できたところからすぐに成約に至るケースが多い。また、登録されていても仏壇等家財が残っている家が10～20件ほどあり、調整が必要な物件もある。ご指摘の通り、物件の登録推進を進めていきたい。
- ・女性の就職先（副業等）について、さきほど話にあった企業誘致で来た企業（Tech.s.t（株））がスキルアップ講座を開催している。定着するか挑戦中だが、取り組みは進めている。

2. 交付金事業の実績について・・・資料2

質疑・意見

○(委員)

観光施策について、「うまれかわる旅」については動画もあるので、会議の後ネットでご覧いただければと思う。

日本航空の客室乗務員が添乗員をするというプランを立てている。JAL の機内誌 10月版で掲載予定である。プロモーション動画を YouTube で9月中旬ごろ発信予定である。合同新聞や、大分駅のサインージ広告も行う。9月上旬から受付を行う。非常に安い料金で行うので、ぜひご参加いただきたい。

最後に、竹田で一番の問題は、竹田に来た人に市内でどうお金を使ってもらうかが問題だと思う。竹田市と連携して対策に取り組みたいので、よろしく願いたい。

(事務局)

JRDC が来年再来年とあるが、地元の企業が稼げるような仕組みが必要と感じているので、そういった視点でも事業を組み立てたい。

○(委員)

コロナ禍でここ3年程活動ができていなかったが、商工会青年部事業として、県補助金を活用して食楽バルを1～2月に開催したいと計画している。詳細が決まればお知らせするので、よろしく願いたい。

3. 企業版ふるさと納税の取組について・・・資料3

質疑・意見

○(金融アドバイザー)

別府にインターコンチネンタルができた。海外の企業。運営本社は東京。実質の運営会社は大阪。誘致・建設に携わった際に、別府に縁もゆかりもない企業だったので、納入業者の選定に困っていた。依頼を受け、地元業者とのマッチングを行った。今でもホテルの食材は大分県の食材を使っていると思う。竹田市だと卵は久住、お菓子は竹田、他にお酒も提供している。今も一社プレゼンを行っている。地元にお金を落とすよう、チャンスがあれば企業にプレゼンさせていただいている。

以前、宇佐・国東・豊後高田で一つの観光圏としてプロジェクトを立ち上げた。関係企業も増えて JAL や JR 西日本にも協力していただいている。今は宇宙港で盛り上がっている。頑張っている所には明るい話題が来ると実感している。

竹田は観光資源が豊富。岡城跡、武家屋敷通り、長湯温泉、湧水群、久住高原。ここまで豊富な観光資源はない。温泉しかない。住んでいる人はピンとこないかもしれないが、すごいポテンシャルがある。竹田市だけでもこれだけあるが、隣の阿蘇市さんとタイアップするなどして、県域を越えた観光地域の形成を考えてみては、いかがか。

○(金融アドバイザー)

創業関係、事業承継に力を入れている。融資以外にも企業さんの販路拡大のマッチング等も精力的に行っている。何かあればご相談いただければと思うのでよろしく願います。

全体を通して意見・質疑

(委員)

市外出身の女子生徒が弁論大会で竹田市の魅力について発表していた。発表の中で地元の魅力に気づくにはボランティアがよい機会になると提案を受けた。本人は野焼きに参加し、地元のおばあちゃんから話を聞いて、愛着が湧いたという。

いろいろなプロジェクトに竹田高校生もボランティアとして参加できればと思うので、機会があればお願いしたい。竹田市の魅力が竹田高校の魅力につながると考えているので、何かありましたら相談いただきたい。

(議長降段)

意見交換

(委員)

保健推進委員という立場から感じているが、子育ては不安なくできていると思うが、出産する場所がない。出産する場所があればよいと感じている。

(委員)

久住高原のお客は多いが、キャンプ等のお金を使わない形態が多い。

うまく連携してお金を落としていただけるシステムが作れればと思うがなかなかうまくいかない。TAOの皆さんやココペリの方とも協力して一次産業の私たちも楽しい農業が展開できるよう取り組みを進めている。

(委員)

福祉局ということでなかなか観光と結びつかないが、地域の盛り立てについて、地元の人と話す機会がある。先ほども話があったが竹田の中で地域にお金を落とす仕組み、地域で消費する仕組みの機運を醸成できればと思う。

(委員)

農業が観光になるような仕組みがあればと思う。

少子高齢化のなかではどうしても農業の衰退が大きくなると思うので、勉強しながら行政とうまく連携できればと思う。

(委員)

林業も人手不足。若い人の就労が少ないのが現状。如何に興味を持っていただくか、どのように維持していくか大変なところにきている。

現金収入がないと興味を持たれないので、補助金等を活用して少しでも還元される仕組みを県、市と連携してできればと思う。大分市の水源でもあり、水源確保の面でも大事な分野なので、連携していきたい。

(委員)

熊本に台湾企業である TSMC が来る。インバウンドのターゲットを台湾に絞ってみては。阿蘇との連携も視野に。

インフラの整備。通信速度が遅い。県内でも遅れていると思う。DX の動きや企業誘致を考えたとき、厳しい面もあると思うので、何か良い方法を考えていただければ。

TSMC とは、...

ファブリーを専業とするビジネスモデルのパイオニアで、1987 年の創業以来、世界最大の半導体ファブリー。業界をリードするプロセス技術と、世界中の半導体産業にイノベーションをもたらす設計支援ソリューションのポートフォリオを持ち、世界各国の顧客やパートナーのエコシステムの拡充を支えている。

2021 年第一四半期における半導体製造市場の、実に 56% のシェアを獲得している。その高い技術に定評があるため、高性能な機器に搭載する場合には、TSMC に委託するしかないと言われるほど。

TSMC に半導体製造を委託している企業として、売りに占める比率の順に、アップル(25.4%)、AMD(9.2%)、メディアテック(8.2%)、ブロードコム(8.1%)、クアルコム(7.6%)、インテル(7.2%)、エヌヴィディア(5.8%)と続く。

出展「ビジネス+IT HPより」

(事務局)

中九州横断道路が熊本まで繋がれば竹田市からの移動時間が短縮できるので、引き続き企業誘致等も取り組んでいきます。

インフラについては、他にもご意見いただいているので、検討していきたい。

(委員)

若い女性の転出について

私たちが若いころも都会への憧れから出ていくというのはあったかなと思う。

一方で子育てを考えたとき、東日本大震災などの災害が多い中で何もなくて子育てはできないのではないかと考えた。

竹田の強さは食糧難に強い、農業があるというのは魅力的だった。もっと子育て世代へのアピールにも目を向けてみてはよいのでは。

(金融アドバイザー)

民間と行政の連携をもっと深めていければ効果も大きくなるのではと感じた。

竹田市は農林畜産分野が重要な産業となっている。雇用の場としても期待されると思う。

金融機関はなかなか農業の知見がないので、勉強して支援できるようにしたい。関係機関と情報共有しながら盛り上げていきたい。

(金融アドバイザー)

働く皆さまのご支援ができればと思う。

九州全体に支店があるので、竹田の情報発信に力を入れていきたい。

なにか関わられることを考えていきたいのでよろしくお願いします。

(金融アドバイザー)

7月赴任で竹田の経済動向などはまだ理解していないが、いち観光者の視点から述べさせていただくと、竹田といえば岡城、武家屋敷通が一番に思い浮かぶ。

地元の人が気づいていないポテンシャルはあると思う。これを突き進めていただければ地域経済の活性化に繋がるのかなと思う。

(金融アドバイザー)

人口減少、女性流出。市内での就職難はあると思うが、一方で資料によると人材不足があがっており、おそらく仕事はある。仕事はあるが、やりたい仕事がないということだと思う。ミスマッチが起きている。やりたい仕事を増やす、又は仕事に対する誤解を解くのが必要。

移住定住には選んでもらう必要がある。もっともっとアピールする必要がある。働く視点からみると、どうやって差別化を図っていくかがポイントだと思う。

私自身は全国を回ってきたが、竹田市と言われても全然ピンとこない。岡城・瀧廉太郎・荒城の月くらいしか思いつかない。県外の人への認識はそういった恐れがある。言葉を選ばず申し上げればその程度の認知しかない。そういった中で竹田市を選んでもらうためにはどうしていくかという視点が必要なのかなと思う。

(会長)

全国のほとんどの市町村で同じような議論をしていると思う。なかなか明るい話題はでないが、頑張った地域が最終的には結果が出ると思う。会長として頑張りたいと思う。

竹田市総合計画に期待している。よろしくお願いします。

閉会

会議終了

(メールにて/当日は、欠席であったがメールをいただいた)

○(委員)

コロナ禍ではありますが、昨年同様、竹田市地域農業経営サポート機構の市外登録サポーター数やマッチング件数、ふるさと納税やネット関係人口の KPI が示すように、外とのつながりが継続的に強化されているように思います。他方、移住推進、定住促進の KPI である各種指標、中九州ニュータウン住宅分譲地の残り区画や空き家の改修事業の件数、定住促進住宅取得補助金の補助件数といった KPI が進捗しています。

もしかすると、外との関係性が強化されていることが定住促進につながっているのでは、という印象を持ちました。この因果関係、詳細に見ていくと今後の政策に反映できるかもしれません。